

学 位 論 文 要 旨

氏名 片山 陽介

論 文 題 目

Therapeutic Window of Lamotrigine for Mood Disorders: A Naturalistic Retrospective Study

(気分障害におけるラモトリギンの有効血中濃度域：後方視的研究)

要 旨

【諸言】ラモトリギンは、双極性障害やうつ病など気分障害に広く使用されているが、その有効濃度域は同定されていない。今回の研究は、気分障害におけるラモトリギンの有効濃度域を検討するために行った。

【研究対象および方法】気分障害に罹患し、ラモトリギンを1年以上服用し、少なくとも1回はラモトリギンの血中濃度を測定した25名の患者を対象とした。これらの患者の精神状態を評価するために、カルテ記載を元に後方視的に Clinical Global Impression-Severity (CGI-S) scale を使用して評価した。有効濃度域の存在を検討するために、この患者における調査最終時点の血中ラモトリギン濃度と CGI-S 評価点の関係を図示した。治療濃度域の存在が想定されるときには、さらに統計学的に検討した。

【結果】25人の患者の最終観察時におけるラモトリギン濃度と CGI-S スコア間の関係より、ラモトリギンの有効血中濃度域は $5\text{-}11\ \mu\text{g/mL}$ と推測した。ラモトリギン投与直前と最終評価時点の CGI-S 評価点を用いた反復測定分散分析では、CGI-S スコアは、推測された有効血中濃度域にある患者はそうでな

い患者より、低い傾向にあった。t 検定では、推測された有効血中濃度域にある 15 人の患者群の最終観察時の CGI-S スコアは、そうでない 10 人の患者群の CGI-S スコアより有意に低かった。なお、性別、年齢、診断、ラモトリギン投与期間においては両群間に有意な差はなかった。

【考察】これらの所見は気分障害でのラモトリギン有効血中濃度が $5\text{-}11\ \mu\text{g/mL}$ であることを示唆する。研究の限界としては、今回の研究は後方視的研究であるので、今後は前方視的な無作為割付プラセボ対照比較試験で評価する必要がある。

【結語】ラモトリギンの気分安定薬としての有効血中濃度域が存在し、それは $5\text{-}11\ \mu\text{g/mL}$ であることが示唆される。

.....

.....

.....

.....

.....

.....